

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570809822		
法人名	グリーンステージ有限会社		
事業所名	グループホーム大仙大曲		
所在地	秋田県大仙市大曲福辺内3-1		
自己評価作成日	平成28年8月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成28年9月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①本人や家族の意見、要望を取り入れ、その人らしい生活ができるよう支援しています。日常の中での気づきを大切に、利用者一人ひとりに寄り添い健康で笑顔ある暮らしを送れるよう努めております。レクや作業等では、その人の得意な事を理解し自立支援を目指し生活支援をしています。家族に職員からの毎月の手紙や面会等で日頃の様子を報告し相談しながら信頼関係を構築しています。共に支えていく体制を整えています。
 ②積極的に外部評価に参加したり、伝達講習や社内研修を行いサービスの質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢化に伴い、地域の行事を維持することが困難な現状の中、地域住民がホームの行事に参加することを楽しんでくれるとのこと。住民もホームでの消火器作動訓練に参加し、初めての経験をしたと喜ばれている。日常の個別の生活データ全てを分かり易く表にし、できる限り手間をかけずチェックや文章を記入する「生活の記録」を採用しており、介護計画を作成する際の貴重なデータとなっている。全スタッフ個別の研修受講ファイルが整備され、必要に応じ何度でも内容を個別に再確認できる体制を築いている。5年前の洪水による床上浸水の教訓により、消防署・消防団(水防団)・行政が電話での確認や見回りにより、ホームの安全にいつも気を配ってくれている。「明るく楽しく健康で」あるためには、今どんな支援が必要なのかを常に問いかけ、それを個別支援に反映させることの重要性を管理者が熱く語ってくれた。やさしくてささやかな社長さんで、意見や提案は遠慮せずに云える環境にある。スタッフが互いを認め、共に支え合いながら入居者に向き合っているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作成したグループホームの理念を掲示し、またカンファレンスや申し送り等で話し合いをして理念を共有し実践できるようにしている。	スタッフが外部研修で学んできたブレインストーミング法(BS法)を活用し、4年前に全スタッフでホーム独自の理念を作成している。「明るく楽しく健康で」あるためには、今どんな支援が必要なのかを常に問いかけ、それを個別支援に反映させることの重要性を管理者が熱く語ってくれた。認知症ケア専門士認定試験に今回挑戦したいとのスタッフの前向きな姿勢も確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会長を中心として相談をしながらホームで企画した敬老会やクリスマス会等の行事に参加して頂きながら交流している。	デイサービスを利用の家族が仲間を連れて民謡ショーを披露してくれ、とても好評とのこと。地域の高齢化に伴い、地域の行事を維持することが困難な現状の中、むしろ地域住民がホームの行事に参加することを楽しんでくれるとのこと。地域の保育園児訪問では、触れ合うことでイキイキとした表情を見せる方が殆ど。近所の住民宅の桜を見に出かけ、記念撮影。豊作だった野菜をおすそ分けして下さる住民もいらつしやるとのこと。避難訓練に参加した住民も消火器作動訓練に参加し、初めての経験をたと喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の方々に救命講習や避難訓練等に参加して頂き、また運営推進会議を通して認知症の理解や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの概況や利用状況等の報告を行い、出席者からの意見や要望を聞きサービスの向上に努めている。	町内会長をはじめ、ホームの右隣り・左隣りの家の方も運営推進会議に参加している。会議の雰囲気「少々堅苦しい」との参加者からの意見を踏まえ、できる限り気楽に意見を出し合えるよう冒頭のホームからの報告は30分以内にとどめ、その後は運営について雑談できるよう改善を重ねている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず出席して頂いている。報告や分からない事を聞きながら、意見や協力を頂いている。	運営推進会議のメンバーは一年毎の固定であり、昨年度は地域包括支援センターより、本年度は介護保険事務所より担当者を派遣してもらっている。ホームの現状や取り組みを伝え、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や社内研修にて、その人の尊厳を考えつつ、身体拘束についての理解に努めている。夜間以外は玄関や裏口に施錠はしていない。	LL財団での身体拘束防止に向けた外部研修にスタッフを派遣し、伝達研修で周知を図り、社内研修報告書により再度全スタッフへの意識づけにつなげている。全スタッフ個別の研修受講ファイルが整備され、必要に応じ何度でも内容を個別に再確認できる体制を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等にて学び理解に努めている。日頃の様子にも気を付け、心理的にも言葉遣いにも注意をはらい虐待の防止に努めている。職員のストレス軽減や発散できる環境を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等を受講しながら学んでいる。必要に応じて活用できるよう知識向上に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に文書と口頭で説明をし、疑問点をたずね不安を解消できるようにしている。説明に理解して納得して頂いた上で、署名、捺印を頂いている。入居後の改定した項目についても分かりやすく説明し、同意を得て署名、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については毎日の中で、家族等については面会時に意見や要望を伺えるよう努めている。遠方に住んでいる家族については電話等で確認している。また、玄関先には意見箱を設置している。意見や要望等はその都度申し送りをし反映している。	クレームや意見箱への投函事例は無い。家族との面会時や受診報告の電話の際にはさりげなく意見や要望をくみ取る努力をしている。本人や家族等からの些細な意見や要望であっても「相談記録票」に記載し、受理から解決までの流れをスタッフ間で共有している。	ホームに対する家族等の意見や要望を更に汲み取る対策について、現状に満足することなく、様々な機会を通して、今一度検討してみよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個人面談を行い意見や提案を聞く機会を設けている。話しやすい環境に努めている。	優しくて気さくな社長さんで、意見や提案は遠慮せずに云える環境にある。年に1回、管理者による個別面談を実施しており、スタッフの家庭の事情による勤務体系の調整を図っており、アットホームで互いに協力しあえる職場である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用管理責任者を設置し、働きやすい環境や働きがいのある職場作りを目指し、職員全員で話し合える場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面談等で職員と一緒にケアの力量等を把握し、必要な研修を受けれる機会を確保してスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業者連絡会等の研修会に参加して情報交換を行い、ネットワークづくりに努めサービスの質の向上に取り組んでいる。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、困り事、不安な事、要望等に耳を傾けている。望む生活を確認し安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談当初より、不安な事や困っている事に耳を傾け、できる限り要望や意向に沿い支援できるようにし、より良い関係が築けるように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線を持ち、生活歴の中で培ってきた経験や知識を教わり、日常生活において共に暮らす者同士の関係性を築くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎月の手紙や面会時には、日頃の様子を伝えて情報を共有している。家族との面会や外出など気兼ねなくできるよう支援し絆を大切にしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していたなじみの美容院や病院に行っている。本人の希望で自宅を訪れたり支援している。家族や親戚、友人と面会ができるよう環境を整え、これまで大切にしてきた関係性を途切れないよう支援している。	遠い方でも20Km以内の方が利用しており、散歩そのものも馴染みの人や場所とのふれあいの機会となっている。医療機関受診の帰りに車で自宅の前を通り、様子を確かめられるよう配慮している。友人が訪問してくれ、和やかに過ごす事例も確認できた。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を職員全員が把握し、レクや作業を行う中で仲介に入り、孤立せず利用者同士が支えあえる環境作りを努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談がある時はいつでも支援できるよう努めている。		
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や行動の中から気づいた事を話し合い、カンファレンス等で意向を把握する。家族とも情報交換を行い本人の思いを尊重しながら希望に沿えるよう努めている。	個別の生活歴を知ることの重要性を認識しており、入居前の聞き取りに加え、入居後も、本人の状況や様子に合わせ、回想してもらうことで、より詳細にその人らしい暮らし方を把握するよう取り組んでいる。電子ピアノ・大正琴・刺し子・編み物・ぬり絵・調理手伝い・野菜の収穫等を通して、様々な生きがいにつなげている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて生活歴、なじみの暮らし方、生きがい等の把握に努めている。自分らしく暮らしていけるよう、情報を共有し日々のケアにつなげている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で本人のできる事、意欲的な事を知り現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中での情報や記録、本人、家族の意向、医師の指示を考慮し、サービス担当者会議等で検討している。意見やアイデアを出し反映させ個別の介護計画書を作成している。	日常の個別の生活データ全てを分かり易く表にし、できる限り手間をかけずチェックや文章を記入する独自の「生活の記録」を採用しており、記載したスタッフ名も一文字で確認できる。この記録が、介護計画を作成する際の貴重なデータとなっている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子やケアの気づきを個別記録に記入し、申し送り等で情報を共有している。新たな課題が見つかった場合は見直しを行っている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で情報を得ながら地域資源を把握し、地域、近隣に外出して楽しむ事ができるように支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望や本人の病気を考慮し、かかりつけの医療機関で継続して利用できるよう支援している。また、医療連携体制を整え、協力医、薬局、歯科医といつでも相談できる関係を築き、適切な医療を受けられるようにしている。	ホームのかかりつけ医は必要に応じて、ホームに往診に来てくれたり、月に一度の健診、認知症サポート医としてアドバイスも受けられる体制にある。処方箋は、かかりつけ医よりFAXでかかりつけ薬局に送信され、処方薬は自動的にホームへ届けられる関係にある。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師がおり、健康チェックを行い常に相談や助言が得られる。体調の変化や気づきを話し合い適切な対応ができています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関へ十分な情報提供を行い、安心して治療ができるよう援助している。入院中は定期的に面会したり洗濯物を届けたりして、病院関係者と情報交換や相談に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応に係る指針を作成し、同意書を設けている。本人、家族の希望に沿った終末期の対応ができるよう体制を整えている。	「重度化した場合における対応にかかる指針」に基づき、入居時に説明し「重度化した場合における対応に係る同意書」を取り交わしている。過去に看取りの実践はないが、入居者の心身の状態変化に応じ、家族や医師との連携のもと、「ターミナルケアについての同意書」様式を整備している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を定期的に行い、または、研修で学び対応の仕方を確認している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと、年2回避難訓練を実施している。消防職員より評価を頂き、また水害等における安全確保のための対応の仕方を学んでいる。地域交流で、河川、道路等の整備情報も頂き協力体制を築いている。	5年前の洪水による床上浸水の教訓により、消防署・消防団(水防団)・行政・議会議員が電話での確認や見回りにより、ホームの安全にいつも気を配ってくれている。町内会長が洪水対策のための土手かさ上げ工事の説明会に出席し、報告してくれた。災害に備え、協力施設である「こもれびの杜」へ入居者全員が実際に一夜避難した貴重な経験を有している。隣の高台にデイサービスが移転したことで、新たな避難場所が確保された。	災害時の地域住民の役割について、今以上の明確化を図るため、関係者による更なる情報の共有と、再認識を図るよう期待します。
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを理解し、自尊心を尊重し、さりげない言葉かけで対応しています。特にトイレ誘導や入浴時は本人の気持ちを尊重し、プライバシーに配慮している。	ケースファイルの背表紙は全てローマ字で表記され、容易に名前が外部から識別できない工夫を採用している。カンファレンスや日常の支援の際に、スタッフ同士が入居者個別の氏名を出さずにケースナンバーで連絡し合う方法も取り入れている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に寄り添い信頼関係を築き、その中で本人の思いや希望が引き出せる環境づくりに努めています。本人のペースにあった言葉かけにて、自己決定ができるよう働きかけている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いを傾聴できる時間を確保し、どのように過ごしたいか確認し、希望に沿うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの理容店や美容院を利用したり、訪問理容を利用しおしゃれができるよう支援している。衣類選びは簡単な言葉かけで自己決定できるようにし、その人らしい身だしなみを心掛けている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬な食材を取り入れ季節を感じとり、好きな物を食べられるようにしている。職員と一緒に食材の下ごしらえ、盛り付け、食器拭き等、できる事を手伝って頂いている。	焼きそば・うどん・そば等麺類は好評とのこと。カップ麺が好物の入居者に関し、かかりつけ医に相談し2日に1度は午後のおやつに提供するよう配慮したとのこと。当日も「買い物いつだっけ(本人とカップ麺を購入に出掛ける日)」とスタッフに問い合わせをする光景を目にした。明日は大好きなチキン味を食べたいとのこと。皮むき・盛り付け・食材切・下膳等々できる範囲で入居者が手伝ってくれている。意外に焼き肉パーティは好評とのこと。献立は冷蔵の中身と相談しながら、調理当番になったスタッフの得意なメニューにすることで、多彩な内容になるよう工夫している。大曲の花火に合わせたホーム手作りの「花見弁当」とは羨ましい。調査当日の昼食は彩も良くとても美味しかった。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量を記録し、栄養バランスを把握している。その人の状態に合わせた調理法にて食事形態に配慮している。水分量は一人ひとりの好みの飲み物で対応し、必要な水分量を確保している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い口腔ケアを行っている。見守りで出来ない方は、介助を行って清潔保持に努めている。寝る前に入れ歯洗浄剤を使用している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を活用して、排泄パターンを把握している。定期的なトイレ誘導や本人の体調に合わせたトイレでの排泄を支援している。職員間で排泄状況について共有して、尿取りパットの枚数を減らしている。	表裏で一人1ヶ月の状況を出来るだけ簡単にチェックできるB4サイズの独自の様式を試行錯誤の結果導入し、個々の日々の詳細な排泄状況を把握している。できる限り排泄の自立に向けた支援を心掛けようとして取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や乳製品等を摂取、食物繊維を多く含む食事の提供など工夫を凝らしている。また散歩や軽体操等で体を動かし、予防に努めている。必要な場合は、かかりつけ医に相談し対応している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調に合わせて、出来る限り希望に沿えるよう調整を図っている。入浴は利用者とのコミュニケーションや身体の状態観察ができる場面ととらえ、支援に反映できるように努めている。	風呂は毎日稼働させており、日数が空かないように、声掛け等個々に合わせて工夫し対応している。入浴を拒否する方は皆無。殆どの方が介助が必要である。声掛けと見守りには特に配慮している。寒冷期は洗濯乾燥機稼働をあえて入浴時間と合わせることで、脱衣室が乾燥機の熱でとても暖かいとのこと。入居者個々の好みの湯温も把握していることが確認できた。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じて日中の活動の充実を図り、適度な休息、そして夜間には気持ち良く眠れるよう、音や照明などに配慮して環境を整えている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を職員が目を通せるようファイルして読み、目的を把握し理解している。薬の変更時は申し送りや日誌に記入し、必ず全職員が共有できるようにしている。医療関係者とは気軽に相談できる関係を築いており、症状の変化等は受診時に報告している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや趣味を大切に、個々に大正琴や刺し子、ピアノを弾いたりして楽しんでいる。掃除、洗濯たみ、食器拭き等、その人の力を活かした役割を持ち、日々の生活に張り合いが出るようにしている。また好きな物を希望に沿いながら食べられるように支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	散歩や買い物は、本人の希望に合わせて支援している。季節に合わせた行事で花見やドライブ、外出に出掛けている。家族との外出ができるよう支援している。	毎週水曜日に買い物に出かけるよう設定している。桜・ラベンダー・フードコート、全員で出かけるには配車上無理があるが、年間行事計画に基づき出来るだけ戸外に出るよう取り組んでいる。その日の天気や希望でふと出かけることも多い。屋外での焼き肉パーティーは思いのほか好評で、食欲旺盛とのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	不安や心配になる事のないよう財布にお金を入れて持っている方や、本人の希望で買い物に出かける時は、必要に応じ適切な金額を持ち、自分で支払えるようにしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望があればいつでもかけられるようにし、直接本人と話せるよう支援している。個人で居室に電話を設置している方もいる。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を感じ、花やちぎり絵を飾り季節感を感じるようにしている。室温や湿度を確認し必要に応じて換気をしながら、不快な臭いがこもらないようにしている。カーテンで光の調節をし居心地の良い空間づくりに努めている。	ほのかに温かく、寒さを感じさせない床暖房を採用している。端の居室や廊下はどうしても寒くなりがちなので、エアコンの暖房を併用することで、ホーム全体の温度差を克服している。入居者本人には内緒と家族が栽培した季節の花を持参くださり、共用空間に彩を添えている。気になる臭いは全く感じられない。かつてデイサービスで使用していたホールは入居者の憩いや行事や会議等に幅広く利用できている。同じ屋根の下でデイサービスがあった頃と比較し、入居者もスタッフも落ち着いた雰囲気を感じているように思えた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多目的ホールを活用し、イス、ソファを置き、気のあった方同士でそれぞれ過ごせるようにしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や本人の好みの物を持参して頂き、居心地良くその人らしい居室になるよう工夫している。	テレビや家具、寝具等持ち込みは自由である。また、入居者の好みに合わせて、社長が自宅にあった昭和レトロなタンスや電子ピアノを居室に提供して喜ばれている。個々のリネンはホームで洗濯している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわからない方には、わかりやすい目印を付けたりしている。歩行が不安定な方には、掴まりやすいよう手すりを設置し安全に生活が送れるようにしている。		